
メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所
NO.8 (2012年10月1日発信)

しっかい！

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

★被災地関連情報★

引き続き募集中です！
問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集！
連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

うだるような暑さに閉口し、早く秋にならないかと思っていましたら、朝晩は急に冷え込むことがあり、身体がついていけず、エアコンを冷房から暖房に切り替えて暮らしています。皆様の地では、いかがお過ごしでしょうか？

仙台事務所では、先月、9月2日～5日にかけて、台湾視察団の方々を仙台市、東松島市、石巻市、山元町へと案内し、各地域での復興状況の取り組みや今後に向けての課題の一端を伝えることが出来ました。特に、仙台市やPSC：パーソナルサポートセンターの取り組み（仮設の見守りや就労支援）、河北新報社で見た迫力ある震災時の映像、石巻専修大学を中心とした石巻災害復興支援協議会の震災当時の動きや現在の活動を知るにつけ、台湾の方々のみならず、私たちにとっても、今回の大震災を様々な角度から捉えて見る良い機会となりました。

やはり、「虫の眼：目の前にあることを見る」「鳥の眼：俯瞰して見る」「魚の眼：時流を読む」という視点が、何事にも必要であると実感しているところです。本来なら、復興支援事務所として岩手から宮城、福島まで3県の被災者や復興状況の概略を伝えることが使命かと思いますが、スタッフが手薄なため、現在取り組んでいる「新しい公共支援事業」をメインに状況報告することをお許してください。

東松島のモデル事業が始動

■9月8日→グリーントウンやもと②③仮設「あおぞらコミュニティ」で、牧野史子さんを講師にワークショップを行いました。広報期間が短く参加者は9名（外に傍聴3名）でしたが、困っていること、これからやりたいこと等を全員で共有したところ、早速、毎月のイベントやモーニングカフェ等、今後の活動に向けてヒ

ントがたくさん出ました。

- 9月9日→バスツアーは中止になりましたが、パラソル喫茶体験が必要と、牧野さん始め近藤、清水、藤田で喫茶活動をしてきました。「あおぞら」からは、会長代行の米倉さんが腕を奮い、100円でパスタを提供しました。参加者は約60名。



仙台市内のモデル事業報告

各仮設では、カフェや食事会等、定期的な活動を順調にしておりますので、今号では通常活動ではなくトピックス的なものを報告します。

- 9月6日→みなし仮設「若松会」で学習支援が始まりました。これは、協議会のメンバーの1人が東北学院大学のボランティアセンターに申し入れて実現しました。最初は1人からのスタートでしたが、3回目は12名が参加。
(中学生1、小6生3、小5生1、小3生3、小2生1、小1生2、年長1)
《若松会のHPを紹介します。 <http://wkmt.net/category/blog/>
まろん(代表)のブログ <http://ameblo.jp/nagi-0716/entry-11357311995.html>》
※ブログの反響が大きく、様々な問合せや取材の申込み等の対応で大変だそうです。



- 9月25日→扇町1丁目公園仮設「おにぎり会」で、第2回プチ講座を実施。
 - ・テーマは「市民活動ってなに？住みよい地域にするには？
仮設(長屋)で暮らすということとは？」
 - ・講師は小林純子さん(NPO法人チャイルドラインみやぎ代表理事
災害子ども支援ネットワークみやぎ代表世話人)
 - ・出席者22名。
 - ・お弁当付きだったからでしょうか？予想に反して多くの参加者がありましたが、市民活動のイロハを伝えるには中途半端



だったような気がして反省しています。しかし参加者の感想には、「仮設内でのルールが必要かも…」「ありがとう等の感謝の言葉やコミュニケーションが必要」「また参加したい」という声があり、自治会のない仮設の座学としては、まずまずのスタートを切りました。



- 9月26日→第5回「仮設住民によるコミュニティ・カフェ等推進協議会」開催。出席者 15 名。パラソル喫茶チーム、仙台市協働推進課、PSC、といういつものメンバーの外に、新たに公益財団法人 WAC 仙台有志が仲間に加わりました。「忙しくて、これまで思うような被災者支援が出来なかったけれど、何かお手伝いしたい」と申し出てくださいました。昔（15 年程前？）、組織は違えども、「困った時はお互いさま」という合言葉を胸に市民活動をしていた仲間です。お互いに歳を重ね、体力には自信がなくなってきましたが、熱い思いはそのままです。出来る範囲で、出来る事をやっていきましょう！

■ 9月27日→NPO 法人亘理いちごっこ訪問

第2回プチ講座と称して、若林区ニッペリア仮設「ニッペ de カフェテラス」と、みなし仮設「若松会」の合同で、コミュニティレストラン「いちごっこ」を訪問してきました。《ニッペ 10 名、若松会 5 名、事務局 2 名（清水、藤田）、総勢 17 名の参加》



美味しい食事（350 円のランチ+150 円のサラダバー 3 皿）で大満足の後、代表の馬場照子さんの話を約 1 時間聞きました。馬場さんの話は、まさに市民活動の変遷そのもの。何か出来る事はないかと無償でボランティア活動を始め、やがて無償から有償へ、そして助成金を獲得しながら活動の幅を広げ、組織化して法人格を取得。今は、助成金からの脱却を目指してコミュニティレストランを展開中です。参加者の感想、「馬場さんのエネルギッシュなお話を伺い、前向きに進めました。頑張りたいと思います」というメッセージからも伺えるように、馬場さんの熱い思いと冷静な分析力に刺激を受けた研修となりました。

① 「新しい公共事業」岩手県宮古市の活動について中間報告

毎月、運営会議を開催し、本事業における現状の課題と宮古市が把握している課題の共有、今後の方向性の検討等を行い、着実に成果が現れています。

市の職員の方が毎回2～3名参加してくださるのは、市がこの事業に対して期待をしてくれていることの現われだと思います。会議の席では、活動中に見つけた課題を正直に報告し、会議出席者全員がその課題を解決するための方策を考え、次回までにやってみることを決めています。行政とNPOが上手に協働できているよい事例になっています。

本事業の参加者のひとつの成果としては、本事業で手づくり教室に集まった方々（被災した方々）の中から、自分たちの手づくり品を売ろうという自主グループが立ち上がったことです。材料選び、ミシンの調達、販売計画など意欲的な活動が自主的に始まりました。

この自主的活動の今後が楽しみです。

② 「復興グッズ被災地グッズ」の現状 復興グッズ被災地グッズ主宰団体連携会議より

復興グッズ被災地グッズは、各地にあります。暇つぶしの趣味としているところも多いのですが、販売しているところもあります。作り手さんの手元に入る金額は、お小遣い程度の収入というケースから月額15万円くらいの内職になっているケースもあります。（最高額は月に50万円だったという報告もありました）。

復興グッズ被災地グッズ主宰団体が集まった会議では、販売の現状、販売価格やコスト配分に関しての情報交換を行いました。

■主宰団体が共通に抱えている課題

- ・1年が経過し、売り上げは減少傾向にある。
- ・運営側のスタッフをボランティア（無給）で回していくのでは、団体の活動にとってかなりの負担になっている。（バックステージを担当してくれるボランティアの希望が少ないなど）
- ・大学祭やバザーなどでの販売の声がかかるが、人手不足で売りにいけない。

■比較的成功している団体の手法

- ・各種助成金から人件費や運営費を確保している
- ・運営側のコストをグッズの価格に計上している
- ・販売してくれているショップ等に手数料を払っている
- ・商品のデザインや品質がいい
- ・商品にストーリーを持たせて、メディアを活用した販売展開をしている

「復興グッズ被災地グッズ」についてのさらなる詳細は、古賀久恵まで直接メール

にてお問い合わせください。Hisaekoga8@gmail.com

市民協からのメッセージ風に



市民協では、みなさまからいただきましたご寄付から宮古の自主活動の原資となるように3万円を寄付させていただきました。これからも「手仕事」応援へみなさまのご寄付をお願いいたします。

【9月パラソル喫茶実施報告】

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
		福島・佐原	すみちゃんの家	さくら会 JR南小泉		はすどらる・ 社前平島大邸店
			NALC・仙台港背後地6 号公園	NALC・荒井小用地		
9	10	11	12	13	14	15
すずめの宿・七郷中央公 園&2号公園		福島・しのぶ台				
モデル事業(パラソル喫 茶体験)あみぞらコミュニ ティ		モデル事業(パラソル喫 茶体験)若松会				
16	17	18	19	20	21	22
		福島・佐原	すみちゃんの家	さくら会 卸町5丁目		
		モデル事業(おにぎり会 &仙台傾聴の会 扇町1 丁目公園)	NALC・岡田西町	NALC・七ヶ浜(中学校・ 第一スポーツ広場)		
23	24	25	26	27	28	29
	はすどらる・扇町4丁目 邸店	福島・しのぶ台			モデル事業(パラソル喫 茶 おにぎり会 &男の台所)	
30						